

Y M F G

アジアニュース

2020 年 11 月

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所
【現地駐在】TMB 銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)
HD 銀行(ベトナム・ホーチミン)、弁護士法人ベトナム明倫国際法律事務所ホーチミンオフィス



【大連支店】

大連における越境 EC 商品販売促進イベントについて

1. はじめに

新型コロナウイルスについては、欧州を中心に再びロックダウンが実施されるなど、未だ世界的に影響を受けている状態です。中国においては、各地で感染者が見つかるなど未だ油断ならない状況ではありますが、徐々にウィズコロナの日常生活が定着化しつつあります。

毎年、中国では 10 月 1 日の国慶節（建国記念日）から大型連休となりますが、連休期間に様々なイベントが開催されます。コロナ禍の最中ではありますが、今年も大連市内において様々なイベントが開催され、当店もイベントに参加しましたのでご紹介いたします。

2. 「2020 中日（大連）博覧会・日本商品展覧会」

当展覧会は、貿易促進と対中投資を目的に商品・技術展示、日本製品の販売、BtoB 商談会が同時開催され、東三省で唯一日本に特化した展覧会として毎年開催されています。今年は 9 月 25 日から 3 日間開催されましたが、昨年の来場者数 106 千人に対し、今年はコロナ禍の最中ではありましたが 103 千人が来場するなど、非常に活気に満ちた展覧会となりました。



写真：日本商品展覧会

会場は 7 つのテーマ（日本製品・技術、越境 EC、輸入商品、対日輸出品、日本文化、旅行資源、日本料理）で構成され、各ブースでは衣料品、生活用品、食品、日本酒等の BtoC の即時販売が行われました。昨年までは、日本からの出張者が自らブースで PR していましたが、今年は渡航ができず、上海や天津等遠隔地にある現地法人が来連し PR を実施する他、日本製品を取扱う中資企業の出展が多く見られました。

当店は越境 EC を手掛けていますが、中国側のパートナー企業である大連愛迪貿易有限公司（越境 EC「Eddimall」運営会社「DIT」）と共同して、日本企業 18 社の代行販売を含め合計 22 ブースを出展しました。当店行員も各ブースで商品案内等の補助を行い

ましたが、ブースは連日大盛況で、3日間の売上金額は28.6万円（約443万円、以下、1元＝15.5円で計算）となりました。ある来場者曰く、コロナ禍の最中で訪日できない大連市民の多くは、普段の買い物は控えても、この展覧会での買い物は気分転換と新しい日本産品を購入することができ、楽しむことができたとのこと。越境EC商品では、長崎県のカステラと広島県の藻塩の売上が堅調で、化粧品と健康食品はメーカーに関係なく全商品売上に結び付きました。化粧品と健康食品では「現在使用している商品が肌に合わないため、より効果が確認できる商品が欲しい」といったお客様が多く、商品の特徴を理解されたお客様は5人に1人の割合で購入されました。なお、当展覧会は、来年国家級の博覧会へと格上げし、2021年5月下旬に開催される予定です。

「2020中日（大連）博覧会・日本商品展覧会」

日時	2020年9月25日～27日（3日間）
場所	大連世界博覧会広場A、Bホール
主催団体	大連市人民政府、遼寧省商務局、中国国際貿易促進委員会遼寧省分会
出展者	日本の各自治体、中日間の経済及び貿易に従事する企業・団体
出展ブース	日本の各自治体、中日間の経済及び貿易に従事する企業・団体、計529（日本商品販売460、観光案内19、日本文化案内12、日本料理販売32、その他6） ※当社支援による出店者は計18社/22ブース（越境ECを利用した日本商品販売：13社、一般貿易を利用した日本商品販売：5社）
ブース代金	無料（新型コロナウイルスの影響によるもの/前回は3,000元）
来場者数	計103千名（前年比△3千名）

3. 「盛唐小京都・日本物産節」

大連樹源科技集团有限公司（以下、樹源グループ）が主催した日本商品販促イベントです。樹源グループは大連市郊外に日本の京都をテーマとしたリゾートを開発しており、64万㎡（東京ドーム約13個分）の広大な敷地に別荘1200棟、商店230棟を建設してい



写真：盛唐小京都・日本物産節

ます。別荘は1棟最低8,000万円以上しますが、別荘の販促活動の一環として、9月19-20日、10月1-4日の6日間イベントが開催され、日本商品を取扱う企業40社が出展しました。イベントでは、別荘所有者、別荘購入希望者に加え、近隣にお住いの家族連れが来場され、主催者発表では10万人の来場があったとのこと。

当店は10月1日より日本酒2社、ワイン1社の合計10商品を初めて販売しました。富裕者は、段ボール1箱（12本）単位で購入する方が多く、ついでにその他越境EC商品もまとめ買いし、専属運転手が台車で運ぶ光景を目の当たりにするなど、中国富裕者の購買力にただ驚くばかりでした。イベント会場では、当店以外にも日本酒や梅酒、焼酎を取扱うブースがいくつかありましたが、いずれも一般貿易商品で価格が高く、大手ブランドの銘柄が中心のため、珍しさには欠けていました。当店のブースでは、甘口・辛口の説明に加えて、人肌、熱燗などの

お勧めの飲み方、産地、精米歩合、商品名の由来などの特徴を説明したところ、日本酒・ワインに関する基礎知識は理解できている方が多く、中華料理との相性、冷酒の適温、ブドウの銘柄に関して質問が寄せられました。また、日本人が片言の中国語で説明する状況が、本物の商品として安心感を与えたようです。当店としては、日本酒・ワインの効果的な説明について学ぶことができた貴重なイベントになり、日本酒・ワインは合計 90 本販売することができ、6 日間の売上は 20 万元（約 310 万円）となりました。なお、樹源グループの別荘販売実績は 40 棟 32 億円以上となったとのことでした。

4. 「第 6 回大連地区日本商品巡回展」

大連市人民対外友好協会主催の日本商品販売会が、10 月 10 日から 13 日までの 4 日間開催されました。開催場所は、大規模商業施設とマンションが集積するオリンピック広場であることから、大連市内の一般市民が来場されました。会場では日本の生活用品や、日本酒、食材、衣料品等、合計千種類以上の商品が展示販売されました。中国人による浴衣美人コンテストや相撲大会など、日本の夏祭りを彷彿させるようなイベントの他、日本人駐在員による餃子作りコンテスト等の日中交流イベントが開催されました。また、日本の地方自治体もブースを出展しており、観光、文化、特産品を紹介していました。

当店は日本酒、ワインを引き続き販売しましたが、4 日間で 150 本の販売となるなど非常に盛況でした。大連市内中心部の開催でもあり、日本料理店の経営者や富裕者、訪日経験のある方が主に購入されました。このイベントでも、段ボール 2 ケース（24 本）を購入された方が 3 名、1 ケース（12 本）が 1 名など、まとめ買いをされるお客様が複数いらっしゃいました。感想をお聞きすると、家族・知人との会食や贈答用として求めたようですが、中には国慶節休暇前に贈答用としてワイン 50 ケース（600 本）を買われていた富裕者もいらっしゃいました。中国での会食ではアルコール度数が高い白酒が一般的で、乾杯として白酒を一気飲みする習慣もありますが、アルコール度数の低い日本酒で乾杯する場面も増えてきているようです。また、日本酒では、乾杯用に大吟醸、食事に純米吟醸、寒い時の熱燗用に純米酒を飲むなど、料理や季節との相性も考慮した飲み方をしているといった声も聞かれました。

このイベントでは、大連市人民政府の高官も来場され、当店のワインを試飲されましたが、美味しさのあまり 2 本購入されました。政府高官がワインを購入したことが広まり、どのワインを購入したのかといった問合せが多くありました。また、あるレセプションで日本酒を提供した際、政府高官が大変喜んだことから、その日本酒を追加で購入したいといった問合せも続くなど、著名人の評価は大変影響があることも理解できたイベントでした。

	「盛唐小京都・日本物産節」	「第6回大連地区日本商品巡回展」
日時	2020年9月19日～20日・10月1日～4日	2020年10月10日～13日
場所	盛唐小京都（金石灘旅游度假区）	オリンピック広場
主催団体	大連樹源科技集团有限公司	大連市人民対外友好協会、大連市西崗区人民政府
出展者	日本の各自治体、中日間の経済及び貿易に従事する企業・団体	日本の各自治体、中日間の経済及び貿易に従事する企業・団体
出展ブース	55ブース（日本商品販売、日本料理販売、その他） ※当行支援による出展者は2社	112ブース（日本商品販売、日本料理販売、その他） ※当行支援による出展者は2社
ブース代金	無料	3,000円

5. おわりに

今回は、10月から越境ECを活用して入荷した日本酒と日本産ワインの店頭販売も行いました。来場者は初めて日本酒を飲む人や、飲み方を熟知している人がいる等、様々でした。日本酒では、贈答用にと1,370円（約21,235円）の高価な商品を購入する富裕者や、値段的にお得だと一升瓶を購入する日本酒愛好家、まとめ買いをする日本料理店等が多く見られました。また、贈答用に購入したいがよくわからないので、とにかく見た目が豪華な商品はないかといった声も聞かれました。ワインについては、ヨーロッパ産、オーストラリア産、チリ産等のワインが既に浸透しており、様々な価格帯の商品がスーパーやコンビニで手軽に手に入る反面、日本産ワインの知名度は非常に低い状態です。しかしながら、本イベントでの顧客反応は上々であり、安心安全で美味しい日本産ワインについても、ニーズ喚起を図っていくことは十分に可能だと感じられました。

当行が紹介可能な越境ECサイト「Eddimall」を活用すれば低コスト、小ロットで中国での販売を開始することが可能です。また、当店は大連市内の様々なイベントに積極的に出展し、越境EC商品を紹介していることから、大連市内の様々な顧客層から直接声を聞くことができ、その声を事業者様へ還元することができます。

今後も様々なイベントに積極的に参加することで、事業者様の商品をPRしていきたいと考えておりますので、中国での事業展開に興味のある事業者様はぜひ最寄りの山口銀行、もみじ銀行、北九州銀行へご相談下さい。

私ども大連支店では中国ビジネスに関する現地での支援、様々な情報を発信することで、事業者様のお手伝いをさせていただきます。

（山口銀行大連支店 吉村 裕和）